



HP ThinPro、バージョン 4.1

管理者ガイド

© Copyright 2008-2010, 2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P. 本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Company の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。


HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の限定的保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。


改訂第 7 版：2012 年 6 月

初版：2008 年 10 月

製品番号：509692-298

このガイドについて

 **注意：** その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こすおそれがあるという注意事項を表します。

 **注記：** 重要な補足情報です。

このガイドでは、ネットワーク管理者が Thin Client を設定する手順について説明します。また、さまざまな設定ユーティリティについても説明します。

目次

1	はじめに	1
	HP ThinPro の使用	2
	ThinPro タスクバー	3
2	セットアップおよびインストール	4
	[HP Easy Tools]ウィザード	4
	インストール	4
3	設定内容	5
	接続	5
	接続	6
	切断	7
	全般設定	7
	Citrix ICA	7
	Web ブラウザー	9
	RDP	9
	追加	10
	Citrix ICA	11
	RDP	14
	HP TeemTalk	17
	TeemTalk 作成ウィザードによる TeemTalk 接続の追加	17
	手動による TeemTalk 接続の追加	18
	Web ブラウザー	19
	XenApp	19
	VMware View	20
	XDMCP	21
	SSH	22
	Telnet	23
	カスタム	24
	コピー	24


削除	24
編集	24
ユーザー ビュー	25
コントロール パネル	25
周辺機器	26
クライアント アグリゲーション	26
クライアント アグリゲーションの概要	26
クライアント アグリゲーションの設定	28
クライアント アグリゲーションの無効化	31
表示オプション	31
プロファイルの追加	31
プロファイルの編集	32
プロファイルの削除	32
キーボードのレイアウト	32
マウス	33
プリンター	33
SCIM 入力メソッドの設定	33
サウンド	33
ThinPrint	34
タッチ スクリーン	34
USB マネージャー	34
セットアップ	35
日付と時刻	35
ネットワーク	35
スクリーンセーバー	37
背景マネージャー	38
HP Easy Tools	38
言語	38
セキュリティ	39
HP ThinPro の構成	39
接続およびコントロール パネルのユーザー アクセス権の設定	39
ユーザーのデスクトップおよびシステムのオプションの設定	40
管理	40
AD/DDNS マネージャー	40
HP Easy Deploy	41
HP Easy Config	41
HP Easy Update	41
工場出荷時設定のリセット	41
HP Automatic Update	42

HPDM Agent	42
SSHD マネージャー	42
ThinState	42
HP ThinPro イメージの管理	43
HP ThinPro の構成の管理	45
VNC シャドウイング	47
詳細設定	48
CDA モード	48
DHCP オプション マネージャー	48
テキスト エディター	49
X ターミナル	49
キーボード ショートカット	49
システム情報	50
全般	50
ネットワーク	51
ネット ツール	52
ソフトウェア情報	52
システム ログ	52
索引	53

1 はじめに

HP ThinPro オペレーティング システムでは、すべてのユーザーおよび管理者のフロント エンドとなるダッシュボードへのアクセスが単一のコンソール インターフェイスからできるようになり、ユーザー インターフェイスの使いやすさがさらに向上しています。[HP Connection Manager]の初期設定の表示では、従来の接続の種類と、設定情報を共有してアクセスできる最新の VDI (Virtual Desktop Infrastructure) ブローカー接続が統合されています。管理者は、[Easy Config]セットアップ ウィザード、[コントロール パネル]、および[システム情報]の各レイヤーにワン クリックでアクセスできます。

対応している接続には、Windows®、Citrix、メインフレーム、ミッドレンジ サーバー、UNIX/Linux バックエンド、Web ホストなどへのアクセスがあります。また、[Citrix XenDesktop]、[VMware View] などのさまざまな VDI ブローカーへのアクセスにも対応しています。

 **注記:** アクセスできるホストの種類は、HP ThinPro オペレーティング システムを使用している HP Thin Client のモデルによって異なることがあります。

ThinPro の画面によっては、このガイドの図と外観が異なることがあります。モデルによっては、一部の機能が含まれていない場合があります。

HP ThinPro の使用

初期設定では、Thin Client の電源を入れたときに HP ThinPro のインターフェイスが表示されます。デスクトップには、アプリケーションを開くためのタスクバー、音量アイコン、および時計が表示されます。HP ThinPro インターフェイスの表示と非表示を切り替えるには、タスクバーの左側にある [ThinPro コントロール センター] をクリックします。




HP ThinPro では、Citrix ICA (Independent Computing Architecture)、XenApp、Microsoft® RDP (Remote Desktop Protocol)、HP TeemTalk、VMware View、X Window、または Web ブラウザー接続を作成することによって、ホストとリモート アプリケーションとの接続を起動および管理できます。管理者としてログインすると、ユーザー モードで表示できるようにする接続および接続の種類を定義できます。管理者はさらに、ユーザーによる接続の削除または新しい接続の作成を制限できます。

[HP ThinPro]ウィンドウのすべてのコンポーネントにアクセスするには、管理者アクセス権でログインする必要があります。Thin Client が管理者モードのときは、以下の点が異なります。

- ウィンドウの上部が青から赤に変わります。
- ウィンドウのタイトルに「(管理者モード)」という説明が追加されます。

HP ThinPro は、初期設定ではユーザー モードで開きます。管理者モードに切り替えるには、以下の操作を行います。

1. 画面の左下隅にある HP ロゴをクリックします。
または
画面背景にカーソルを置き、右クリックします。
2. [管理者/ユーザー モードの切り替え]を選択します。
3. フィールドに管理者パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

 **注記：** 管理者モードの初期設定のパスワードは root です。

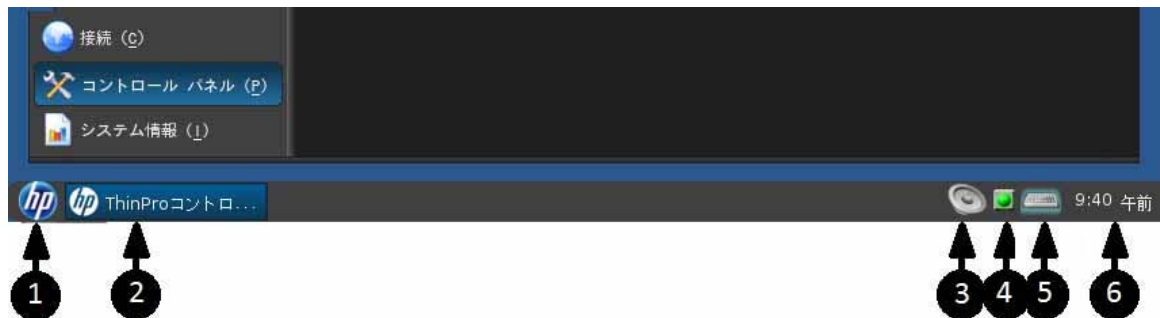
以下の操作でモードを切り替えることもできます。

1. **Ctrl + Alt + Shift + S** キーを押して[管理者モードに切り替え]を選択してから、[OK]をクリックします。
2. フィールドに管理者パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

ThinPro タスクバー

ThinPro タスクバーは、画面の下部に沿って表示される、いくつかのコントロールを含むバーです。

図 1-1 ThinPro タスクバー



1. **HP ボタン**：HP ボタンから、ThinPro オペレーティング システムの基本機能（コントロール センター、ログオフ、再起動、電源オフなどの機能）にアクセスできます。
2. **ウィンドウ タスク**：個々のアクティブなウィンドウに対応するアイコンがこの領域に表示されます。
3. **音量調整**：サウンド調整ダイアログを表示して、Thin Client の音量を変更できます。
4. **ネットワーク アイコン**：アクティブなネットワーク接続に関する情報が表示されます。
5. **仮想キーボード**：ソフトウェア キーボードが表示されます。仮想キーボードからの入力は、現在フォーカスのあるウィンドウにリダイレクトされます。仮想キーボードは、キーボード イベントおよびマウス クリックまたはタッチスクリーン クリックの両方に反応します。クライアント全体のキーボード レイアウトを変更しないで、仮想キーボードのレイアウトだけを変更できます。たとえば、アクセント記号付き文字をいくつか入力する間だけフランス語レイアウトの仮想キーボードを使用し、その後すぐに通常のキーボード レイアウトに戻ることができます。仮想キーボードのレイアウトは、そのウィンドウが開いている間のみアクティブになります。
6. **時計表示**：Thin Client の時計に応じた時刻が表示されます。時計表示上にカーソルを置くと、現在の日付を示すツールチップが表示されます。

2 セットアップおよびインストール

HP ThinPro では、ウィザードベースのインターフェイスを使用して、Thin Client を簡単に設定できます。

[HP Easy Tools]ウィザード

[HP Easy Tools]ウィザードを使用すると、ThinPro ソフトウェアを簡単に設定および保守できます。初めて Thin Client を起動したときは、このウィザードが自動的に起動します。初期セットアップ後にこのウィザードを起動するには、左側のパネルにある [hp] アイコンをクリックします。

[HP Easy Tools]ウィザードは、2つの主要機能で構成されます。[HP Easy Update]および[HP Easy Config]です。[HP Easy Update]では、新しいイメージ、サービス パック、または追加パッケージで ThinPro イメージを最新の状態に保つことができます。[HP Easy Config]では、ウィザード インターフェイスを使用して ThinPro を簡単に設定できます。[HP Easy Update]および[HP Easy Config]のどちらも、[コントロール パネル]→[管理]タブから利用できます。

[HP Easy Tools]Thin Client 管理スイートについて詳しくは、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

インストール

Thin Client のセットアップおよび構成が完了したら、そのイメージまたは構成をコピーし、[HP ThinState]を使用してモデルとハードウェアが同一の他の Thin Client に展開します。詳しくは、[「ThinState」](#)を参照してください。

3 設定内容


ここでは、[ThinPro コントロール センター]で管理者およびユーザーが利用できるすべてのユーティリティおよび操作手順について説明します。左側のパネルにある3つのボタンのどれかをクリックすると、対応するウィンドウにアクセスできます。

- **「接続」**：[接続]ウィンドウでは、リモート接続へのアクセスおよびリモート接続の管理を行います。
- **「コントロール パネル」**：[コントロール パネル]には4つのタブがあり、周辺機器の構成、ユーザーの操作環境のセットアップ、デスクトップのカスタマイズ、およびさまざまなユーティリティの管理を行います。
- **「システム情報」**：[システム情報]には5つのタブがあり、システム、ネットワーク、およびソフトウェア情報を表示したり、診断テストを実行したりします。

接続

HP ThinPro では、Citrix ICA、XenApp、Microsoft RDP、TeemTalk、VMware View、X Window、および Web ブラウザーなどのリモート接続を利用および管理できます。HP ThinPro のすべての機能にアクセスするには、管理者としてログインする必要があります。ユーザーとしては、接続を実行できるほか、HP ThinPro の一部の機能にアクセスできます。

設定されている場合、現在ターミナルにログイン中のユーザーに割り当てられた、すべてのサーバー接続とアプリケーション接続が一覧表示されます。各接続について、接続の名前、種類、および状態が表示されます。

 **注記**： 表示されている接続は、どれもダブルクリックするだけで有効になります。

管理者モードでは、**「接続」**をクリックして、接続の設定および割り当てができます。



【接続】ウィンドウには、ユーザーに割り当て可能なすべての接続が一覧表示されます。このウィンドウから接続を追加、編集、および削除できます。

- 【**接続名**】：接続の名前が表示されます。この列から接続名を変更することはできません。
- 【**種類**】：接続の種類（ICA、XenApp、Microsoft RDP、TeemTalk、VMware View、Web ブラウザーなど）が表示されます。この列から接続の種類を変更することはできません。
- 【**状態**】：接続状態（接続中または停止中）が表示されます。

接続の一覧の上には、以下の 8 つのボタンがあります。

- 【**接続**】：クリックすると、選択されている接続が開始されます。
- 【**切断**】：クリックすると、選択されている接続が切断されます。
- 【**全般設定**】：クリックすると、接続設定を管理できます。
- 【**追加**】：クリックすると、新しい接続が作成され、利用可能な接続の一覧に追加されます。
- 【**コピー**】：クリックすると、接続がコピーされ、利用可能な接続の一覧に追加されます。
- 【**削除**】：クリックすると、選択されている接続が削除されます。選択した接続は、現在ターミナルにログイン中のユーザーだけでなく、すべてのユーザーに割り当てられた接続の一覧からも削除されます。
- 【**編集**】：クリックすると、選択されている接続を編集できます。
- 【**ユーザー ビュー**】：クリックするとユーザー モードで表示されている接続を編集できます。

接続

接続を開くには、【状態】が【停止中】になっている接続を【接続名】の下から選択して、【接続】をクリックします。

切断

接続を閉じるには、[状態]が[接続中]になっている接続を[接続名]の下から選択して、[切断]をクリックします。

全般設定

[全般設定]の内容は、接続の種類が同じであるすべての接続で共有されます。Citrix ICA、Web ブラウザー、および RDP の 3 つの接続の種類があります。接続の種類別のオプションを以下に示します。

Citrix ICA

以下の表に、Citrix ICA 接続に利用できるオプションの一覧を示します。

表 3-1 Citrix ICA 接続のオプション

項目	説明
[HDX MediaStream]を有効にする]	[HDX MediaStream]は、可能な場合はいつでも、Thin Client の処理能力を利用してマルチメディア コンテンツを表示させます。データ センター側では、圧縮されたマルチメディア情報はネイティブな形式で Thin Client に直接送信されます。操作性は、お使いの Thin Client の処理能力およびマルチメディア機能によって異なります
[Windows の警告音を有効にする]	Windows の警告音を有効にします
[ICA アクセラレーション (LAN のみ)]	ICA アクセラレーションを有効にします
[バックアップ ストアを許可する]	バックアップ ストアを許可します
[サーバーの再描画を使用する]	サーバーの再描画機能を使用します
[接続前の情報ボックスを無効にする]	接続の完了前に表示される情報ボックスを表示しません
[非同期 COM ポート ボーリングを使用する]	COM ポートの非同期ボーリングを使用します
[スマート カード ログオンを許可する]	クライアントに接続されたスマート カードをログオン認証に使用します
[オフ スクリーン サーフェスを有効にする]	画面の更新を画面ではなくメモリ内ビットマップに描画するよう ICA クライアントに指示します。これにより、帯域幅を有効に活用できます
[セッションの共有を有効にする]	セッションの共有を有効にします
[自動再接続を有効にする]	切断された接続の自動再接続を有効にします
[ローカルの IM の使用を有効にする]	ローカルの入力方式を使用してキーボード入力を処理します。このオプションは、ヨーロッパ言語でのみサポートされています
[EUKS 番号を使用する]	Windows サーバー上での拡張 Unicode キーボード サポート (EUKS : Extended Unicode Keyboard Support) の使用を制御します 0=拡張 Unicode キーボード サポートなし 1=拡張 Unicode キーボード サポートをフォールバックとして使用 2=可能な限り拡張 Unicode キーボード サポートを使用
[最小ビットマップ キャッシュ サイズ]	ビットマップのキャッシュ サイズを最小限に抑えます

表 3-2 Citrix ICA 接続のローカル リソース オプション

項目	説明
[オーディオ入力を許可する]	Thin Client からのオーディオ入力を許可します
[プリンターの自動作成]	プリンターを自動的に作成します
[ドライブ マッピング]	
[ドライブ マッピングを有効にする]	ドライブ マッピングをローカル パスに指定できるようにします

表 3-3 Citrix ICA 接続のウィンドウ オプション

項目	説明
[シームレス ウィンドウを有効にする]	HP ThinPro のローカル デスクトップ上にネイティブ アプリケーションであるかのように、ウィンドウを 1 つだけ表示して操作できるようにします
[初期設定のウィンドウ サイズ]	初期設定のウィンドウ サイズを指定します。設定可能な値は次のとおりです：[全画面表示]、[固定サイズ]、[画面サイズに対する割合]
[初期設定のウィンドウの色]	初期設定のウィンドウの色を指定します。設定可能な値は次のとおりです：[16]、[256]、[16 ビット]、[24 ビット]、[自動]
[初期設定の 256 色マッピング]	このオプションは、[初期設定のウィンドウの色]が[256]に設定されている場合にのみ有効です。設定可能な値は次のとおりです：[共有：近似色]、[プライベート：同色]

表 3-4 Citrix ICA 接続のファイアウォール オプション

項目	説明
[プロキシ]	プロキシ サーバーの設定
[プロキシの種類]	設定可能な値は次のとおりです：[なし：直接接続]、[SOCKS]、[Secure：HTTPS]、[ブラウザーの設定を使用]、[プロキシの自動検出]
[プロキシ アドレス]	プロキシ サーバーの IP アドレス
[プロキシ ポート]	プロキシ サーバーに接続するためのポート
[ユーザー名]	プロキシ サーバーへの接続に使用するユーザー名
[パスワード]	プロキシ サーバーへの接続に使用するパスワード
[ファイアウォール接続に代替アドレスを使用する]	Citrix ICA クライアントが、ファイアウォール内のサーバーへのアクセス時に、サーバーに定義された代替アドレスを要求します。代替アドレスは、サーバー ファーム内の各サーバーに指定する必要があります

表 3-5 Citrix ICA 接続のサーバーの場所オプション

項目	説明
[初期設定のプロトコル]	この接続の初期設定のプロトコル。設定可能な値は次のとおりです：[TCP/IP ブラウザー]、[TCP/IP HTTP ブラウザー]、[SSL/TLS HTTPS ブラウザー]
[TCP アドレス]	Citrix サーバーの TCP アドレス。3つのボタンを使用して、一覧のエントリを追加、編集、または削除できます
[HTTP アドレス]	Citrix サーバーの http アドレス。3つのボタンを使用して、一覧のエントリを追加、編集、または削除できます

表 3-6 Citrix ICA 接続のキーボード ショートカット オプション

項目	説明
[キーボード ショートカットでの操作]	ファンクション キーの操作を指定します。設定可能な値は次のとおりです：[変換]、[全画面表示のデスクトップでのみ直接転送]、[直接転送]
[直接キー操作を停止]	[キーボード ショートカットでの操作]が[変換]に設定されているときは無効です
[各ファンクション キーおよびそのマッピングの一覧]	[キーボード ショートカットでの操作]が[変換]または[全画面表示のデスクトップでのみ直接転送]に設定されているときにのみ有効です

Web ブラウザー

Web ブラウザー接続には以下の設定オプションがあります。

表 3-7 Web ブラウザー接続の一般オプション

項目	説明
[Web ブラウザー設定]	このボタンをクリックすると、Web ブラウザーのオプション ダイアログが開きます
[接続固有の設定の管理を許可する]	Web ブラウザーで接続設定を管理できるようにします

RDP

RDP 接続には以下の設定オプションがあります。

表 3-8 RDP 接続の一般オプション

項目	説明
[次を使用してホスト名を送信]	指定したホスト名を Thin Client の MAC アドレスまたはホスト名としてリモート システムに送信します


追加

[追加] ボタンを使用して、新しい接続を作成します。新しい接続を作成するときは、ウィザード インターフェイスで表示される説明に沿って、接続に固有のオプションを設定できます。ウィザードのダイアログ ボックスには[前へ] ボタンおよび[次へ] ボタンがあり、これらを使用して前または次のウィザード ダイアログに移動できます。

どの種類の接続にも、ウィザード内に[詳細設定]というタイトルのダイアログがあります。ここには、すべての種類の接続に共通の設定が含まれます。次の表に、接続ウィザードの[詳細設定]のオプションを示します。

表 3-9 新規接続の詳細設定

項目	説明
[予備接続]	接続を開始できなかった場合に、代わりとして予備接続で開始を試みます 注記： このオプションは、接続の種類のうち、XenApp および VMware View では利用できません
[自動開始の優先度]	自動開始の優先度によって、接続を開始する順序が決まります。[0]に設定すると、接続が無効になります。その他の値に設定すると、その順番で開始されます 設定可能な値は次のとおりです： [0]、[1]、[2]、[3]、[4]、[5]
[自動再接続]	この接続が切断された場合に、自動的に再接続を試みます
[接続前にネットワークを待機]	接続を開始するためにネットワークが必要ない場合、またはネットワークでの接続開始を待たない場合は、このオプションを無効にします
[デスクトップにアイコンを表示する]	この接続のデスクトップ アイコンを作成します
[ユーザーによるこの接続の起動を許可する]	管理者以外のユーザーがこの接続を起動できるようにします
[ユーザーによるこの接続の編集を許可する]	管理者以外のユーザーがこの接続を変更できるようにします

 **注記：** [ユーザーによる...を許可する] オプションは管理者モードでのみ設定できます。

以下の種類の接続を作成できます。

- [「Citrix ICA」](#)
- [「RDP」](#)
- [「HP TeemTalk」](#)
- [「Web ブラウザー」](#)
- [「XenApp」](#)
- [「VMware View」](#)
- [「XDMCP」](#)
- [「SSH」](#)
- [「Telnet」](#)
- [「カスタム」](#)

Citrix ICA

1. Citrix ICA 接続を追加するには、**[接続]**→**[追加]**の順にクリックします。
2. **[Citrix ICA]**を選択します。ネットワーク設定用の適切な値を選択します。

表 3-10 新規 Citrix ICA 接続のネットワーク設定

項目	説明
[接続名]	接続の名前
[ネットワーク]	ネットワーク固有の設定に関するセクション
[サーバーの場所]	サーバーの場所
[サーバーの種類]	サーバーの種類。設定可能な値は次のとおりです： [サーバー] または [公開アプリケーション] 。 [参照] をクリックすると、サーバーを検索できます。 [初期設定を使用する] を選択すると、初期設定のサーバーの種類を指定できます
[サーバー]	サーバーの名前
[プロトコル]	接続に使用するネットワーク プロトコル。設定可能な値は次のとおりです： [初期設定] 、 [TCP/IP ブラウザー] 、 [TCP/IP HTTP ブラウザー] 、 [SSL/TLS HTTPS ブラウザー]
[アプリケーション]	アプリケーション
[資格情報]	ログオン資格情報の設定
[ユーザー名]	ログオン ユーザー名
[パスワード]	ログオン パスワード
[ドメイン]	ログオン ドメイン
[スマート カード ログオンを有効にする]	クライアントに接続されたスマート カードによるログオンを許可します

[次へ]をクリックして続行します。

3. 接続設定用の適切な値を選択します。

表 3-11 新規 Citrix ICA 接続の設定

項目	説明
[オーディオ入力を有効にする]	この接続からのオーディオ入力を有効にします
[データ圧縮を使用する]	この接続にデータ圧縮を使用します
[中ボタンでの貼り付けを有効にする]	マウスの中ボタンをクリックして貼り付け操作を実行できるようにします
[ビットマップのディスク キャッシュを使用する]	接続のビットマップにディスク キャッシュを使用します
[ドライブ マッピングを有効にする]	Thin Clientのドライブ マッピングを有効にします
[サウンド]	使用する音質を指定します。設定可能な値は次のとおりです： [高品質] 、 [中品質] 、 [低品質]
[SpeedScreen]	設定可能な値は次のとおりです： [自動] 、 [オン] 、 [オフ]

表 3-11 新規 Citrix ICA 接続の設定 (続き)

項目	説明
[マウス クリックのフィードバック]	設定可能な値は次のとおりです: [自動]、[オン]、[オフ]
[ローカル テキスト エコー]	設定可能な値は次のとおりです: [自動]、[オン]、[オフ]
[暗号化のレベル]	設定可能な値は次のとおりです: [基本]、[RCS 128 ビット: ログイン時のみ]、[RCS 40 ビット]、[RCS 56 ビット]、[RCS 128 ビット]

[次へ]をクリックして続行します。

4. ウィンドウ設定用の適切な値を選択します。

表 3-12 新規 Citrix ICA 接続のウィンドウ設定

項目	説明
[シームレス ウィンドウを有効にする]	ネイティブ アプリケーションのように、HP ThinPro のローカル デスクトップ上にウィンドウを 1 つだけ表示して操作できるようにします
[ウィンドウ サイズ]	設定可能な値は次のとおりです: [全画面表示]、[固定サイズ]、[画面サイズに対する割合]
[ウィンドウの色]	設定可能な値は次のとおりです: [初期設定]、[16]、[256]、[16 ビット]、[24 ビット]、[自動]
[256 色マッピング]	設定可能な値は次のとおりです: [初期設定]、[共有: 近似色]、[プライベート: 同色]。このオプションは、[ウィンドウの色]が[256]に設定されている場合にのみ有効です

[次へ]をクリックして続行します。

5. アプリケーション設定用の適切な値を選択します。

表 3-13 新規 Citrix ICA 接続のアプリケーション設定

項目	説明
[アプリケーション]	Citrix アプリケーション
[ディレクトリ]	Citrix ディレクトリ

[次へ]をクリックして続行します。

6. ファイアウォール設定用の適切な値を選択します。

表 3-14 新規 Citrix ICA 接続のファイアウォール設定

項目	説明
[プロキシ]	プロキシ サーバーの設定
[プロキシの種類]	プロキシの種類を選択します。設定可能な値は次のとおりです：[初期設定]、[なし：直接接続]、[SOCKS]、[Secure : HTTPS]、[ブラウザの設定を使用]、[プロキシの自動検出]
[プロキシ アドレス]	プロキシのホスト名を入力します。このオプションは、[プロキシの種類]が[初期設定]または[なし：直接接続]に設定されている場合は無効です
[プロキシ ポート]	プロキシのホスト ポートを入力します
[ユーザー名]	リモート コンピューターに接続するときに使用するアカウントのプロキシ ユーザー名を入力します
[パスワード]	リモート コンピューターに接続するときに使用するアカウントのパスワードを入力します
[ファイアウォール接続に代替アドレスを使用する]	Citrix ICA クライアントが、ファイアウォール内のサーバーへのアクセス時に、サーバーに定義された代替アドレスを要求します。代替アドレスは、サーバー ファーム内の各サーバーに指定する必要があります

[次へ]をクリックして続行します。


7. スマート Ping 設定用の適切な値を選択します。

表 3-15 新規 Citrix ICA 接続のスマート Ping 設定

項目	説明
[スマート Ping]	HP ThinPro で、接続の試行前にサーバーに ping を送信できます。サーバー名の解決に失敗するか、サーバーが ping の応答に失敗した場合、Thin Client は接続の試行を中止します。設定可能な値は次のとおりです：[Ping しない]、[標準のエコー]。以下の 2 つのオプションは、このオプションが[標準のエコー]に設定されている場合にのみ有効です
[スマート Ping のポート番号]	スマート Ping のポートを指定できます
[スマート Ping のタイムアウト]	スマート Ping で ping を送信し続ける時間を指定できます

[次へ]をクリックして続行します。

8. 共通の設定用の適切な値を選択します (表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください)。
 9. [終了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを閉じます。

 **注記：** [Citrix ICA]の USB リダイレクトを有効にするには、[USB マネージャー]ユーティリティを使用します。詳しくは、「[USB マネージャー](#)」を参照してください。

RDP

Microsoft RDP (Remote Desktop Protocol) を使用すると、Windows ベースのアプリケーションでネットワーク接続経由の通信を実行できるようになります。Microsoft RDP は、Windows NT®以降のすべてのバージョンの Windows に搭載されています。

1. RDP 接続を追加するには、**[接続]**→**[追加]**の順にクリックします。
2. **[RDP]**を選択します。適切なネットワーク オプションを設定します。

表 3-16 新規 RDP 接続のネットワーク設定

項目	説明
[名前]	[参照] ボタンを使用すると、リモート システムを検索できます
[アドレス]	リモート システムの IP アドレス
[ポート]	リモート接続に使用するポート
[アプリケーション]	RDP アプリケーションのパス 注記： Microsoft RDP のシームレス ウィンドウ モードを使用する場合は、サーバーの seamlessrdp のパスおよび実行するアプリケーションのパスを入力します。たとえば、C:\%seamless に seamlessrdp をインストールした場合に Microsoft Word を実行するには、「C:\%seamlessrdp\%seamlessrdpshell.exe C:\%Program Files%\Microsoft %Word.exe」と入力します
[ディレクトリ]	ユーザーの初期作業ディレクトリを設定します。 [アプリケーション] の設定とあわせて公開アプリケーションの固定接続を設定するために使用されます
[ユーザー名]	RDP ディレクトリ
[パスワード]	接続に使用するユーザー名
[ドメイン]	接続に使用するパスワード
[スマート カード ログインを許可する]	ローカルに接続されたスマート カードを使用してログイン資格情報を提供することを許可します

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切なウィンドウ オプションを設定します。

表 3-17 新規 RDP 接続のウィンドウ設定

項目	説明
[シームレス ウィンドウを有効にする]	<p>HP ThinPro のローカル デスクトップ上にウィンドウをネイティブ アプリケーションであるかのように、1 つだけ表示して操作できるようにします</p> <p>注記： Microsoft RDP のシームレス ウィンドウ モードを使用するには、以下の操作を行います</p> <p>a. サーバー サイド ソフトウェアをインストールします (http://www.cendio.com/seamlessrdp/、英語サイト)</p> <p>b. [ネットワーク]ダイアログ ボックスの[アプリケーション]フィールドで、サーバーの seamlessrdp のパスおよび実行するアプリケーションのパスを入力します。たとえば、C:\%seamless に seamlessrdp をインストールした場合に Microsoft Word を実行するには、「C:\%seamlessrdp\%seamlessrdpshell.exe C:\%Program Files%\Microsoft %Word.exe」と入力します</p> <p>c. シームレス ウィンドウを有効にします</p>
[ウィンドウのサイズ]	ウィンドウのサイズ。設定可能な値は次のとおりです：[固定]、[割合]、[全画面]
[ウィンドウの色]	設定可能な値は次のとおりです：[自動]、[8 ビット]、[15 ビット]、[16 ビット]、[24 ビット]、[32 ビット]

[次へ]をクリックして続行します。

4. 適切なオプションを設定します。

表 3-18 新規 RDP 接続のオプション設定

項目	説明
[移動イベントを有効にする]	この接続で移動イベントを有効にします
[データ圧縮を有効にする]	この接続にデータ圧縮を使用します
[暗号化を有効にする]	この接続の通信を暗号化します
[ビットマップの更新を強制する]	ビットマップを強制的に更新します
[プライベート カラーマップを使用する]	ローカルのプライベート カラーマップを使用します
[システム警告音]	システム警告音を有効にします
[コンソールに接続する]	コンソール ポートに接続します
[プロトコル レベル]	設定可能な値は次のとおりです：[自動]、[4]、[5]、[5.1]、[5.2]
[送信するホスト名]	この接続でリモート システムに送信するホスト名

[次へ]をクリックして続行します。

5. 適切なローカル リソース オプションを設定します。

表 3-19 新規 RDP 接続のローカル リソース設定

項目	説明
[リモート コンピューターのサウンド]	設定可能な値は次のとおりです：[再生しない]、[このコンピューターで再生する]、[リモート コンピューターで再生する]
[デバイス マッピング]	
[USB 記憶装置のマッピングを有効にする]	USB 記憶装置のマッピングを有効にします。使用するドライブ文字はドロップダウン リストで設定できます
[ポートのマッピングを有効にする]	ポートのマッピングを有効にします
[プリンターのマッピングを有効にする]	プリンターのマッピングを有効にします

[次へ]をクリックして続行します。


- 適切な操作環境オプションを設定します。

表 3-20 新規 RDP 接続の操作環境設定

項目	説明
[デスクトップの背景]	この接続のデスクトップを設定します
[ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する]	デスクトップ上でウィンドウをドラッグ中にウィンドウの内容を表示します
[メニューとウィンドウのアニメーション]	メニューとウィンドウのアニメーションを有効にします
[テーマ]	この接続で使用するテーマ
[ビットマップ キャッシュ]	ビットマップ キャッシュを有効にします

[次へ]をクリックして続行します。

- 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「[新規接続の詳細設定](#)」を参照してください）。
- [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを閉じます。

 **注記：** Microsoft RDP の USB リダイレクトを有効にするには、[USB マネージャー]ユーティリティを使用します。詳しくは、「[USB マネージャー](#)」を参照してください。

HP TeemTalk

新しい HP TeemTalk 接続は、以下の 2 つの方法で追加できます。

- [「TeemTalk 作成ウィザードによる TeemTalk 接続の追加」](#)
- [「手動による TeemTalk 接続の追加」](#)

[HP Teemtalk]について詳しくは、『HP TeemTalk Terminal Emulator 7.3 ユーザー ガイド』を参照してください。このガイドは <http://bizsupport1.austin.hp.com/bc/docs/support/SupportManual/c02718826/c02718826.pdf> から入手できます。

TeemTalk 作成ウィザードによる TeemTalk 接続の追加

1. ウィザードで TeemTalk 接続を追加するには、**[接続]**→**[追加]**の順にクリックします。
2. **[Teemtalk]**を選択して、**[Teemtalk 作成ウィザード]**をクリックします。適切な接続オプションを設定します。

表 3-21 Teemtalk 作成ウィザードによる新規接続の情報設定

項目	説明
[セッション名]	セッションの名前
[送信]タイプ	接続に使用するネットワーク送信の種類。設定可能な値は次のとおりです：[TCP/IP]、[シリアル]、[SSH2]、[SSL]
[接続]タイプ	使用する接続方法。ボタンを使用して接続の詳細設定オプションを設定できます
[エミュレーション]タイプ	設定可能な値は次のとおりです：[hp70092]、[IBM 3151]、[IBM3270 ディスプレイ]、[IBM3270 プリンター]、[IBM5250 ディスプレイ]、[IBM5250 プリンター]、[MD Prism]、[TA6530]、[VT シリーズ]、[Wyse]

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します。

表 3-22 Teemtalk 作成ウィザードによる新規接続の詳細設定オプション設定

項目	説明
[エミュレーション プリンター]	TeemTalk のエミュレーション プリンター設定
[自動ログオン]	TeemTalk の自動ログイン設定
[キー マクロ]	TeemTalk のキー マクロ設定
[マウス動作]	TeemTalk のマウス動作設定
[ソフト ボタン]	TeemTalk のソフト ボタン設定
[属性]	TeemTalk の属性設定

表 3-22 Teemtalk 作成ウィザードによる新規接続の詳細設定オプション設定 (続き)

項目	説明
[補助ポート]	TeemTalk の補助ポート設定
[ホットスポット]	TeemTalk のホットスポット設定 http://bizsupport1.austin.hp.com/bc/docs/support/SupportManual/c02718826/c02718826.pdf

[次へ]をクリックして続行します。

4. 適切な設定を設定します。

表 3-23 Teemtalk 作成ウィザードによる新規接続の設定オプション設定

項目	説明
[設定]	TeemTalk の設定ボタン
[接続されたセッションを開始する]	TeemTalk で接続されたセッションを開始します
[ステータス バーを表示する]	この接続のステータス バーを表示するよう TeemTalk に要求します

[次へ]をクリックして続行します。

5. 適切な確定オプションを設定します。

表 3-24 Teemtalk 作成ウィザードによる新規接続の確定設定

項目	説明
[デスクトップにアイコンを作成する]	この接続のデスクトップ アイコンを作成する場合は、このオプションを選択します
[セッションの概要]	作成されるセッションの概要が表示されます

6. [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを閉じます。

手動による TeemTalk 接続の追加

1. TeemTalk 接続を手動で追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [Teemtalk]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-25 新規 Teemtalk 手動接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[システム ビープを鳴らす]	システム警告音を有効にします

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを終了します。

Web ブラウザー

Mozilla Firefox ブラウザー ベースの Web ブラウザーを使用して接続を作成します。

1. 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [Web ブラウザー]を選択して、以下の表に示すオプションを設定します。

表 3-26 新規 Web ブラウザー接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[URL]	接続の URL
[キオスク モードを有効にする]	キオスク モードを有効にします
[全画面表示を有効にする]	接続に全画面表示モードを使用します
[印刷ダイアログを有効にする]	印刷ダイアログ ボックスを有効にします

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを終了します。

XenApp

1. XenApp 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [XenAPP]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-27 新規 XenAPP 接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[サーバーの URL]	サーバーの URL
[ユーザー名]	接続に使用するユーザー名
[パスワード]	接続に使用するパスワード
[ドメイン]	接続に使用するドメイン

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

VMware View

PCoIP（PC-over-IP）は VMware に搭載されている通信プロトコルで、仮想マシンへのリモート アクセスを有効にします。

1. VMware View 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [VMware View]を選択して、適切なネットワーク オプションを設定します。

表 3-28 新規 VMWare View 接続のネットワーク設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[サーバー]	リモート サーバーの名前
[ユーザー名]	接続に使用するユーザー名
[パスワード]	接続に使用するパスワード
[ドメイン]（大文字と小文字が区別される）	接続に使用するドメイン
[デスクトップ]	接続に使用するデスクトップ

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切なオプションを設定します。

表 3-29 新規 VMWare View の一般設定オプション設定

項目	説明
[ログイン オプション]	
[自動ログイン]	接続の確立時に自動的にログインします
[スマートカード ログインを許可する]	ローカルに接続されたスマート カードを使用してログイン資格情報を提供することを許可します
[コマンド ライン引数]	接続に使用するコマンド ライン引数

[次へ]をクリックして続行します。

4. 適切な RDP オプションを設定します。

表 3-30 新規 VMWare View 接続の RDP 設定

項目	説明
[サウンドのリダイレクト]	
[サウンドのリダイレクトを有効にする]	設定可能な値は次のとおりです：[オフ]、[ローカル]、[リモート]

表 3-30 新規 VMWare View 接続の RDP 設定 (続き)


項目	説明
[デバイス マッピング]	
[USB 記憶装置のマッピングを有効にする]	割り当てるドライブ文字をドロップダウン リストから選択します
[ポートのマッピングを有効にする]	ローカル ポートのリモート システムへのマッピングを許可します
[プリンターのマッピングを有効にする]	ローカル プリンターのリモート システムへのマッピングを許可します


[次へ]をクリックして続行します。


- 適切な詳細設定オプションを設定します (表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください)。
- [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

RDP の代わりに PCoIP を使用してデスクトップ接続を開始する場合

- [接続]→[追加]の順にクリックします。
- [接続] ウィンドウで接続を選択して、[接続]をクリックします。
必要に応じて、フィールドに View Connection サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ユーザー名、パスワード、およびドメイン名を対応するフィールドに入力して、[接続]をクリックします。
- デスクトップ プールの右側にある矢印をクリックして、[プロトコル]→[PCoIP]の順に選択します。
- [接続]をクリックします。

 **注記:** PCoIP を初期設定のプロトコルとして設定するか、またはユーザーが選択したプロトコルを無効にするには、[VMware View Manager] ウィンドウ (<http://<サーバー名>/admin>) でデスクトップ設定およびプール設定を編集します。

 **注記:** PCoIP を初期設定のプロトコルとして設定するか、またはユーザーが選択したプロトコルを無効にするには、[VMware View Manager] ウィンドウ (<http://<サーバー名>/admin>) でデスクトップ設定およびプール設定を編集します。

 **注記:** VMware View の USB リダイレクトを有効にするには、[USB マネージャー]ユーティリティを使用します。詳しくは、「[USB マネージャー](#)」を参照してください。

XDMCP

XDMCP は、リモートの X Server に直接接続する場合に使用します。X Server は、Linux、BSD (Berkeley Software Distribution)、および HP-UX (Hewlett-Packard UniX など多くの Unix 系オペレーティング システムで、グラフィックスを表示するために使用されています。

- XDMCP 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
- [Xdmcp]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-31 新規 XDMCP 接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[種類]	XDMCP 接続の種類。設定可能な値は次のとおりです：[選択]、[クエリ]、[ブロードキャスト]
[アドレス]	このオプションは、[種類]が[クエリ]に設定されている場合に指定する必要があります
[フォント サーバー]	
[フォント サーバーを使用する]	ローカルにインストールされているフォントではなく、リモートの X フォント サーバーを使用します
[フォント サーバー]	[フォント サーバーを使用する]を選択した場合は、フォント サーバーを指定します
[ディスプレイの設定]	XDM 接続のディスプレイ設定を指定するときにクリックします。この設定を行わない場合は、初期設定が使用されます。この画面について詳しくは、 「表示オプション」 を参照してください

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「[新規接続の詳細設定](#)」を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

SSH

SSH (Secure Shell) は、Linux、BSD、および HP-UX などの Unix 系のオペレーティング システムにコマンド ラインからリモートでアクセスする場合によく使用されます。SSH も暗号化されています。

1. SSH 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [SSH]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-32 新規 SSH 接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[ネットワーク]	
[アドレス]	リモート システムの IP アドレス
[ポート]	接続に使用するリモート ポート
[ユーザー名]	接続に使用するユーザー名
[アプリケーションの実行]	接続するために実行するアプリケーション
[オプション]	
[圧縮]	サーバーと Thin Client の間で送信されるデータを圧縮するには、このオプションを選択します

表 3-32 新規 SSH 接続の構成設定 (続き)

項目	説明
[X11 接続の転送]	サーバーが X Server の場合にこのオプションを選択すると、ユーザーは SSH セッションからユーザー インターフェイスを起動し、Thin Client でユーザー インターフェイスをローカル表示できるようになります
[TTY を強制的に割り当てる]	このオプションを選択してコマンドを指定すると、一時的なセッションが開始されてコマンドが実行されます。コマンドが完了すると、セッションが終了します。コマンドを指定しないと、セッションはオプションを選択しなかった場合と同様に正常に動作します
[スタイル]	
[前景色]	SSH セッションでのテキストの初期設定の色です
[背景色]	SSH セッションでの背景の初期設定の色です
[フォント]	設定可能な値は次のとおりです：[7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24]

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します (表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください)。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

Telnet

Telnet は、コマンド ラインでのリモート アクセスに使用される古い方式です。Telnet は暗号化されていません。

1. Telnet 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [Telnet]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-33 新規 Telnet 接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[アドレス]	リモート システムの IP アドレス
[ポート]	リモート システムで使用するポート
[スタイル]	
[前景色]	前景の色
[背景色]	背景の色
[フォント]	設定可能な値は次のとおりです：[7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[6X13]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24]

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

カスタム

独自の Linux アプリケーションをインストールする場合、カスタム接続を使用すると[HP Connection Manager]からそのアプリケーションを起動できるようになります。

1. カスタム接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [カスタム]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-34 新規カスタム接続の構成設定

項目	説明
[名前]	接続の名前
[実行するコマンドを入力してください]	リモート接続するために実行するコマンド

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（表 3-9 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

コピー

接続をコピーするには、以下の操作を行います。

- ▲ [接続名]の下で選択する接続をクリックして、[コピー]をクリックします。
接続のコピーが[接続名]の下の一覧に表示されます。

削除


接続を削除するには、以下の操作を行います。

- ▲ [接続名]の下で選択する接続をクリックして、[削除]をクリックします。
接続が[接続名]の下の一覧から削除されます。

編集

1. 接続を編集するには、[接続名]の下で接続をクリックして、[編集]をクリックします。
その接続の接続設定ウィンドウが開きます。
2. 接続を編集して、[適用]をクリックします。
3. [OK]をクリックします。

ユーザー ビュー

 **注記：** この機能は管理者モードでのみ使用できます。

1. ユーザー モードで表示される接続を選択するには、[ユーザー ビュー]をクリックします。
[接続名]バーの上に[有効にする]ボタンと[無効にする]ボタンが表示されます。
2. 一覧から1つ以上の接続を選択します。
3. [有効にする]をクリックしてユーザー モードでのこの接続の表示を許可するか、[無効にする]をクリックしてユーザー モードでこの接続を使用できないようにします。
4. 変更を完了してから、[ユーザー ビュー]を再度クリックします。

コントロール パネル



コントロール パネルのユーティリティは、以下の4つのタブに分類されています。

- [「周辺機器」](#)
- [「セットアップ」](#)
- [「管理」](#)
- [「詳細設定」](#)

管理者モードでは、コントロール パネルのすべての項目を使用できます。管理者モード以外では、設定によって許可されている項目だけを使用できます。管理者モード以外でも設定可能な項目は、管理者モードで[セットアップ]タブの[HP ThinPro の構成]ツールを使用して変更できます。

周辺機器

これらのユーティリティでは、周辺機器を設定できます。このタブで、以下のユーティリティを使用できます。

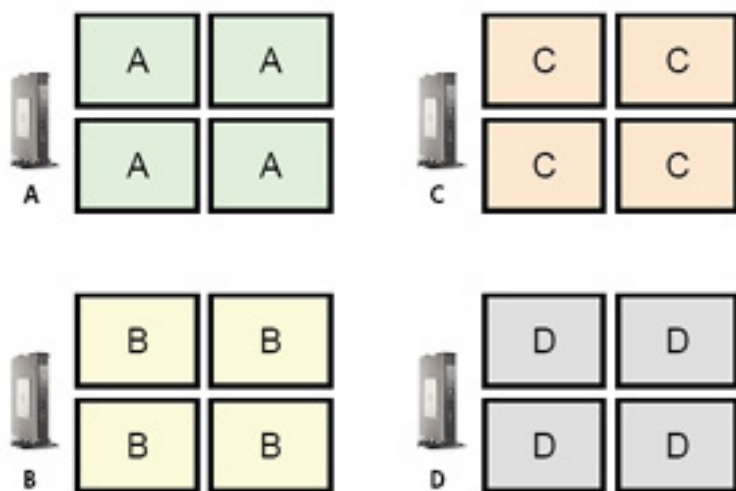
- [「クライアント アグリゲーション」](#)
- [「表示オプション」](#)
- [「キーボードのレイアウト」](#)
- [「マウス」](#)
- [「プリンター」](#)
- [「SCIM 入カメソッドの設定」](#)
- [「サウンド」](#)
- [「ThinPrint」](#)
- [「タッチ スクリーン」](#)
- [「USB マネージャー」](#)

クライアント アグリゲーション

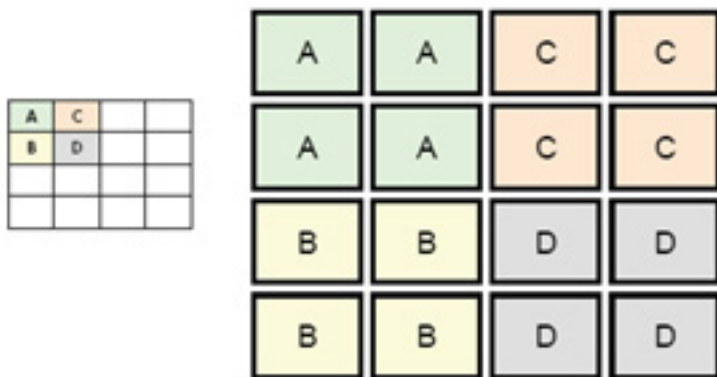
Thin Client は、最大で 4 台のモニターをサポートします。追加の画面領域が必要な場合は、クライアント アグリゲーションを使用することによって、最大で 4 台の Thin Client をつないで 1 つのキーボードおよびマウスで制御できます。各 Thin Client が最大で 4 台のモニターをサポートしているため、他のハードウェアやソフトウェアを追加しなくても、最大 4 台のコンピューターおよび 16 台のモニターをクライアント アグリゲーションによって 1 つのキーボードおよびマウスで制御できるようになります。

クライアント アグリゲーションの概要

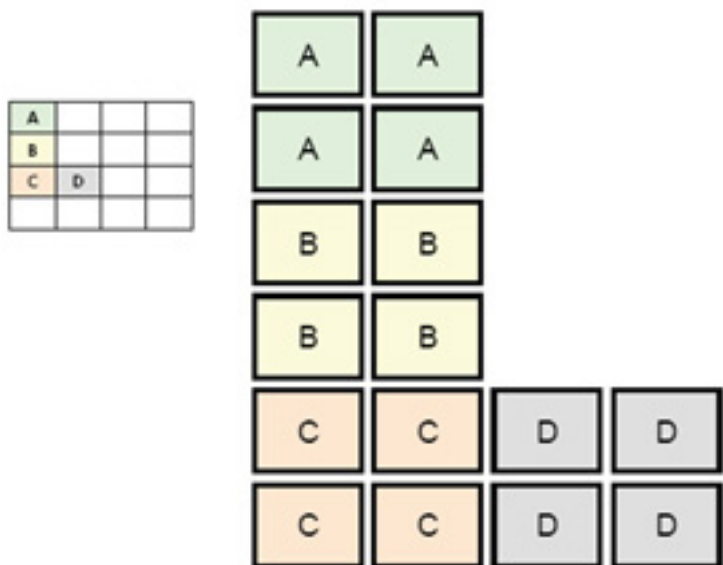
それぞれに 4 台のモニターが接続された、4 台の Thin Client があると仮定します。[ディスプレイ設定]ダイアログを使用すると、Thin Client とモニターは以下に示すように、Thin Client にそれぞれ 2×2 の配列のモニターが設定されます。



クライアント アグリゲーションを使用すると、4 台の Thin Client を 4×4 のグリッド上に配置できます。以下の図は、4×4 のグリッドを使用した長方形の配列上に配置された Thin Client の、配置の一例です。たとえば、Thin Client A のモニターの右側からさらに右にマウス ポインターを移動すると、そのポインターが Thin Client C のモニターの左側に表示されます。同様に、キーボード入力も Thin Client A から Thin Client C にリダイレクトされます。



以下の図は、4×4 のグリッドを使用した Thin Client の別の配置およびその結果として得られるモニターの配置例です。




この構成では、マウス ポインターを Thin Client A のモニターの右側からさらに右に移動すると、そのポインターが Thin Client D のモニターの左側の上 1/3 の領域に表示されます。同様に、マウス ポインターを Thin Client B のモニターの右側からさらに右に移動すると、そのポインターは Thin Client D のモニターの左側の中央 1/3 の領域に表示されます。最後に、マウス ポインターを Thin Client C のモニターの右側からさらに右に移動すると、ポインターは Thin Client D のモニターの左側の下 1/3 の領域に表示されます。


注記： デスクトップ ウィンドウは、各 Thin Client をまたいで表示したり、クライアント コンピューター間で移動したりすることはできません。通常、各 Thin Client は関連付けられたリモート コンピューターへの接続に基づいてウィンドウを作成するため、Thin Client 間でウィンドウを移動する必要がありません。

キーボードおよびマウスが物理的に接続されている Thin Client をアグリゲーション サーバーと呼びます。他の Thin Client をアグリゲーション クライアントと呼びます。マウス ポインターがどれかのアグリゲーション クライアント上に存在する場合、それらのアグリゲーション サーバーとなる Thin Client からのマウスおよびキーボードの入力は暗号化され、選択されたアグリゲーション クライアントに対してネットワーク経由で送信されます。アグリゲーション クライアントは、それらのマウスおよびキーボードの入力の暗号化を解除して、アグリゲーション クライアントのローカルデスクトップに渡します。

クライアント アグリゲーションは、[Synergy]と呼ばれるオープン ソース ソフトウェア パッケージに基づいており、その暗号化は[stunnel]と呼ばれるパッケージによって提供されます。

 **注記：** [Synergy]および[stunnel]ソフトウェアは（Embedded OS バージョン 9.xx および 10.xx を実行している）HP dc72 Blade Workstation クライアントや HP dc73 Blade Workstation クライアントにもインストールされるため、クライアント アグリゲーション構成では、これらのクライアント コンピューターを HP gt7725 Thin Client に相互接続できます。

クライアント アグリゲーションの設定

 **注記：** クライアント アグリゲーションは、各 Thin Client（アグリゲーション サーバーおよび各アグリゲーション クライアント）上で個別に設定する必要があります。

クライアント アグリゲーションを設定するには、以下の 2 つの処理を行います。

1. [「アグリゲーション クライアントの設定」](#)：1～3 台のアグリゲーション クライアントを設定できます。
2. [「アグリゲーション サーバーの設定」](#)

アグリゲーション クライアントの設定

各アグリゲーション クライアントで、以下の操作を行います。

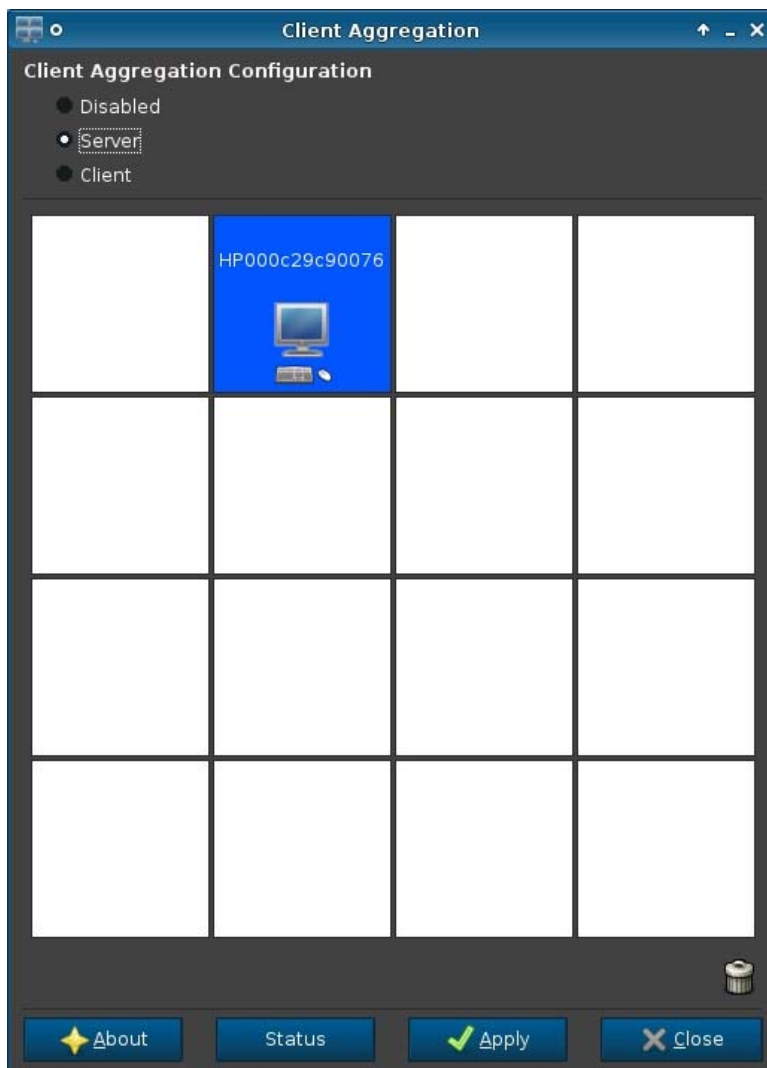
1. [クライアント アグリゲーション]をダブルクリックします。
2. [クライアント]をクリックします。
3. フィールドにアグリゲーション サーバーのサーバー ホスト名または IP アドレスを入力します。
4. [適用]をクリックして変更を適用します。

アグリゲーション サーバーの設定

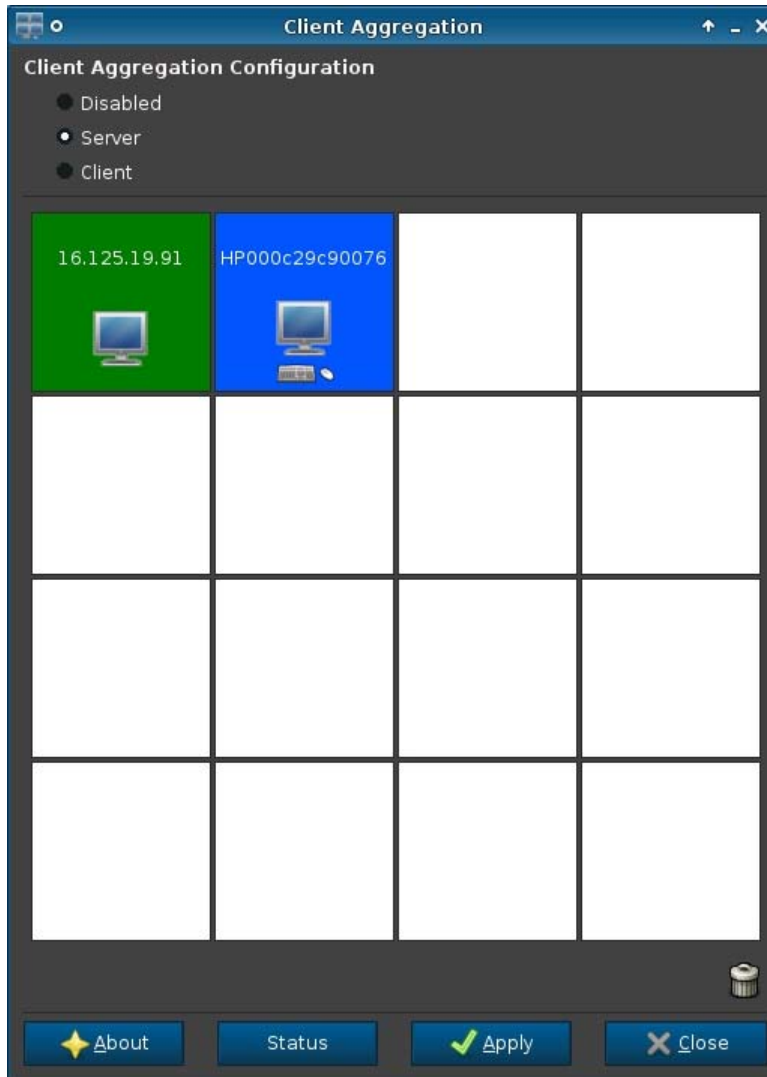
アグリゲーション サーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. [クライアント アグリゲーション]をダブルクリックします。
2. [サーバー]をクリックします。

3. アグリゲーション サーバーの Thin Client は、ホスト名を含む紫色のボックス内に表示されます。 アグリゲーション サーバーをクリックしてから、4×4 のグリッド内の目的の場所にドラッグします。 以下の図では、アグリゲーション サーバーの Thin Client が、4×4 のグリッドの先頭の行の 2 番目の列に配置されています。



4. 4×4 のグリッド内で、最初のアグリゲーション クライアントを配置する場所をクリックし、そのクライアント名または IP アドレスを入力します。以下の図では、IP アドレスが 16.125.19.91 のアグリゲーション クライアントが、4×4 のグリッドの先頭の行の最初の列に配置されています。完了したら、Enter キーを押します。アグリゲーション クライアントが緑色のボックスに表示されます。



5. これと同じ手順で、4×4 のグリッド内にアグリゲーション クライアントを最大 2 台追加して、合計で最大 3 台のアグリゲーション クライアントを配置します。

4×4 のグリッド内のアグリゲーション サーバーおよびアグリゲーション クライアントの配置は、クライアント コンピューターをクリックしてから新しい場所にドラッグすることによって、いつでも変更できます。

アグリゲーション クライアントおよびアグリゲーション サーバーを設定すると、暗号化された相互の通信を自動的に確立しようとします。コンピューター間の接続状態を表示するには、[ステータス] をクリックします。

クライアント アグリゲーションの無効化

クライアント アグリゲーションを無効にするには、以下の操作を行います。

1. [クライアント アグリゲーション]をダブルクリックします。
2. [無効]を選択します。
3. [適用]→[閉じる]の順にクリックします。

表示オプション


このユーティリティを使用すると、プロファイルを追加、編集、および削除できます。プロファイルとは、解像度、リフレッシュ レート、ビット深度、および画面の回転の有効/無効設定が保存されたディスプレイ設定のことです。

通常、管理者は以下の初期設定プロファイルを使用します。

- DDC (Display Data Channel) を使用して、モニターの解像度およびリフレッシュ レートを問い合わせる
- 24 ビットまたは 32 ビットの色深度を使用する
- 画面を回転させない

以下の場合、管理者は初期設定とは別のプロファイルを設定できます。

- ネットワーク経由で転送されるデータまたはグラフィックス チップに送信されるデータの量が少ないため、16 ビットの色深度を使用して Microsoft RDP または[Citrix ICA]のパフォーマンスを向上させる
- 特定の解像度またはビット深度でなければ正常に機能しないアプリケーションを使用するユーザーがいる
- さまざまな種類のモニターが組織内で使用されているが、1つのディスプレイ プロファイルに標準化する
- モニターを（縦向きまたは横向きに）回転させる必要があるアプリケーションを実行するユーザーがいる

 **注記：** [表示オプション]ウィンドウの内容は、実際にお使いのハードウェアによって異なります。モデルによって、設定できる最大のモニター数は4台、2台、または1台のみになります。

プロファイルの追加

プロファイルを追加するには、以下の操作を行います。

1. [表示オプション]をダブルクリックします。
2. [新規作成]をクリックします。
3. [プロファイル設定]の下にある[プロファイル名]フィールドに名前を入力します。
4. お使いのモニターに適した[解像度]を選択します。
5. [深度]を選択します。
6. お使いのモニターに適した[向き]を選択します。
7. [保存]をクリックして変更内容を保存するか、[元に戻す]をクリックして変更を破棄します。

8. [ディスプレイ構成]で、[プライマリ ディスプレイのプロファイル]および[セカンダリ ディスプレイのプロファイル]を選択します。
9. [モード]を設定します。
10. [設定のテスト]をクリックしてプロファイルを確認します。
11. [適用]→[閉じる]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

プロファイルの編集

プロファイルを編集するには、以下の操作を行います。

1. [表示オプション]をダブルクリックします。
2. [プロファイル]一覧からプロファイルを選択します。
3. 必要に応じて、[プロファイル設定]および[ディスプレイ構成]を編集します。
4. [設定のテスト]をクリックしてプロファイルを確認します。
5. [適用]→[閉じる]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

プロファイルの削除

プロファイルを削除するには、以下の操作を行います。

1. [表示オプション]をダブルクリックします。
2. [プロファイル]一覧からプロファイルを選択して、[削除]をクリックします。
3. [適用]→[閉じる]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

キーボードのレイアウト

使用するキーボードが1つのみの場合は、[プライマリ]タブで設定します。2つ目のキーボードは[セカンダリ]タブで設定します。

キーボード レイアウトを設定するには、以下の操作を行います。

1. [キーボード レイアウト]をダブルクリックします。
2. [標準キーボード]の一覧でキーボードの種類を選択します。
3. キーボードの[モデル]、[レイアウト]、および[種別]を設定します。
4. 必要に応じて、[ローカルキーボード ショートカットを最小限にする]をクリックし、Thin Clientにマッピングされるキーボード ショートカットの数を最小限に抑えます。
5. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

マウス

マウスの動作およびカーソル サイズを設定するには、以下の操作を行います。

1. **[マウス]**をダブルクリックします。
2. 以下の3つのタブでオプション項目を設定します。
 - **[振る舞い]**：左手用または右手用マウス操作、動きの設定、およびダブルクリックの速度を設定します。
 - **[カーソル]**：カーソルのサイズを設定します。
 - **[アクセシビリティ]**：マウスのエミュレーションを有効にします。
3. **[閉じる]**をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

プリンター

このコントロール パネル項目では、CUPS プリンターの設定ツールが起動します。詳しくは、<http://cyberelk.net/tim/software/system-config-printer/>（英語サイト）を参照してください。

SCIM 入力メソッドの設定

これは、SCIM(Smart Common Input Method) プラットフォームの GUI (グラフィカル ユーザー インターフェイス) セットアップ ユーティリティです。Thin Client 自体で中国語および日本語の入力方式を設定するために使用されます。このオープン ソース プログラムについて詳しくは、SCIM プラットフォームの Web サイト、http://sourceforge.net/apps/mediawiki/scim/index.php?title=Main_Page（英語サイト）を参照してください。

- ▲ **[SCIM 入力メソッドの設定]**をダブルクリックします。

サウンド

ここでは、オーディオのパラメーターを指定できます。

1. **[サウンド]**をダブルクリックします。
2. **[スイッチを表示する]**をクリックして、追加設定を表示します。
3. 個々のスライダー コントロールを使用して、ソースごとにサウンド レベルを調整できます。
4. **[ファイル]**→**[オプション]**の順にクリックして、追加のデバイスおよび制御オプションを表示します。
5. **[表示]**→**[管理]**の順にクリックして、音量調整プロファイルを表示および管理します。
6. デバイスおよび制御パラメーターを設定してから**[ファイル]**→**[終了]**の順にクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

ThinPrint

ThinPrint を使用するには、以下の操作を行います。


1. [Thinprint]をダブルクリックします。
2. [帯域幅]、[パケット サイズ]、および各プリンターの[プリンター設定]を設定します。
3. [OK]をクリックします。

タッチ スクリーン

タッチ スクリーンを使用すると、ディスプレイの画面に触れることでThin Client を操作できます。

タッチ スクリーンを有効にするには、以下の操作を行います。

1. [タッチ スクリーン]をダブルクリックします。[タッチ スクリーンを有効にする]を選択します。
2. [コントローラーのタイプ]および[デバイス ファイル名]を選択し、必要に応じて[左右反転]または[上下反転]を選択します。
3. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。
変更内容は次回ログイン時に有効になることを知らせるメッセージが表示されます。
4. [はい]をクリックしてログオフし、デスクトップを再起動して変更内容を有効にします。
[いいえ]をクリックすると、現在のデスクトップ環境は変更されません。
5. [コントロール パネル]→[周辺機器]→[タッチ スクリーン]→[調整]の順にクリックして、タッチ スクリーンを調整します。

 **注記：** タッチ スクリーンは、タッチ スクリーンを有効にしてデスクトップを再起動した場合にのみ調整できます。

ディスプレイを回転させた場合は、タッチ スクリーンでは画面上の移動が正しく追跡されません。

USB マネージャー

USB の取り付けを設定するには、以下の操作を行います。

1. [USB マネージャー]をダブルクリックします。
2. 以下のリモート プロトコルのどれか1つを選択します。
 - [Citrix]
 - [ローカル]
 - [RDP]
 - [VMWare View]

3. [ローカル]を選択した場合は、次のオプションも指定できます：[デバイスのマウントを許可する]または[デバイスを読み取り専用でマウントする]
4. [OK]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

セットアップ

これらのユーティリティを使用すると、要件に応じて Thin Client をセットアップできます。[セットアップ]タブでは以下のユーティリティを使用できます。

- [「日付と時刻」](#)
- [「ネットワーク」](#)
- [「言語」](#)
- [「セキュリティ」](#)
- [「HP ThinPro の構成」](#)

日付と時刻

日付、時刻、およびタイムゾーン情報を設定するには、以下の操作を行います。

1. [日付と時刻]をダブルクリックします。
2. [タイムゾーン]タブおよび[日付と時刻]タブで、タイム ゾーン、日付、および時刻を選択します。
3. ネットワーク タイム サーバーを代わりに使用する場合は、[ネットワーク タイム サーバーを使用する]を選択し、サーバーのアドレスをそのフィールドに入力します。
4. カレンダーに週番号を表示する場合は、[週番号を表示する]をクリックします。
5. [適用]→[OK]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

ネットワーク

グローバル ネットワークを設定するには、以下の操作を行います。

1. [ネットワーク]をダブルクリックします。
2. [有線]タブを設定します。
 - a. IPv6 を有効にする：IPv6 接続を使用していることを確認します。初期設定はIPv4 です。
 - b. Ethernet 速度：リンク速度と二重モードの組み合わせの一覧が利用できます。
 - c. 接続方法：自動接続または静的な接続を使用するためのオプション
 - d. 静的アドレスの設定：[IPv6 を有効にする]が**無効**の場合
 - IP アドレス
 - サブネットマスク
 - デフォルト ゲートウェイ

- e. 静的アドレスの設定：[IP v 6 を有効にする]が有効の場合
- IPv6 アドレス：例：2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334
 - サブネット プレフィックスの長さ：例 64
 - デフォルト ゲートウェイ：例：fe80::20a:42ff:feb0:5400%4

f. セキュリティ設定

認証

- TTLS
 - 内部認証：詳細な認証レイヤ
 - CA 証明書：セキュリティ証明書の場合
 - 匿名 ID：(オプション) 任意の一時名
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - パスワード：ユーザーのパスワード
- PEAP
 - 内部認証：詳細な認証レイヤ
 - PEAP のバージョン：使用する PEAP のバージョン
 - CA 証明書：セキュリティ証明書の場合
 - 匿名 ID：(オプション) 任意の一時名
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - パスワード：ユーザーのパスワード
- TLS
 - CA 証明書：セキュリティ証明書の場合
 - ユーザー証明書：ユーザー証明書の場合
 - 秘密キー：秘密キーの場合
 - ID：ユーザーの ID 文字列
 - 秘密キーのパスワード：ユーザーのキーのパスワード

3. [DNS] タブを設定します。

- ホスト名：Thin Client のホスト名
- DNS サーバー：DNS サーバー名
- 検索ドメイン：この Thin Client が属するドメイン
- HTTP プロキシ：HTTP 通信に使用するプロキシ
- FTP プロキシ：FTP 通信に使用するプロキシ

4. [IPSec]タブを設定します。

- 追加：新しいルールの追加
必要に応じて、詳しく記述できます
- 編集：強調表示されているルールの編集
- 削除：強調表示されているルールの削除

5. [VPN]タブを設定します。

接続インターフェイス

- Cisco
 - ゲートウェイ：サーバーのゲートウェイ アドレス
 - グループ名：グループのグループ名
 - グループ パスワード：グループ パスワード
 - ドメイン：ドメイン名
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - ユーザー パスワード：ユーザーのパスワード
- PPTP
 - ゲートウェイ：サーバーのゲートウェイ アドレス
 - NT ドメイン：NT ドメイン名
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - ユーザー パスワード：ユーザーのパスワード

6. [HP 速度]タブを設定します。

パケット損失防止の有効化：可能な場合はインターネット上でのデータの損失を防止します

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. [スクリーンセーバー]をダブルクリックします。
2. [スクリーンセーバーの設定]を選択します。
 - a. [スクリーンセーバーを有効にする]を選択するか、スクリーンセーバーが不要な場合は選択を解除します。
 - b. 操作しない状態になってからスクリーンセーバーが起動するまでの時間（分）を選択します。フィールドに数字を入力するか、上または下矢印キーを使って数字を選択します。
 - c. 必要に応じて、[復帰時にパスワードを要求する]を選択します。

- d. [モード]を選択します。
 - [ブランク スクリーン]
 - [ロゴ]
 - e. [ロゴ]を選択した場合は、[ロゴをカスタマイズする]を選択し、[選択]をクリックして、目的のロゴ ファイルを検索します。
3. 一定の時間使用していない状態が続くとディスプレイがオフになるようにするには、[ディスプレイの電源管理]を設定します。
 - a. [ディスプレイの電源管理を有効にする]を選択するか、この機能を設定しない場合は選択を解除します。
 - b. ディスプレイがオフになるまでのアイドル時間(分)を選択します。フィールドに数字を入力するか、上または下矢印キーを使って数字を選択します。
 4. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

背景マネージャー

デスクトップの背景を変更するには、以下の操作を行います。

1. [デスクトップの背景]をダブルクリックします。
2. [変更]をクリックし、デスクトップの背景として使用する画像ファイルを検索して[開く]をクリックします。
3. [スタイル]の一覧で、[中央に表示]、[並べて表示]、または[全画面表示]を選択します。
4. [初期設定に戻す]をクリックすると、変更が破棄されて工場出荷時の画像に戻ります。
5. 色を変更するには、[色]を選択して、[色]の一覧から色を選択します。
6. [適用]→[OK]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

HP Easy Tools

1. [Easy Deploy]をダブルクリックします。
2. [キャプチャ]を選択して、イメージ、設定、または構成を USB キーまたはFTPにキャプチャします。
3. [展開]を選択して、このThin Clientまたは別のThin Clientに展開します。
4. [セキュリティ]を選択して、管理者パスワードを提供します。

言語

1. [言語]をダブルクリックします。
2. 使用する言語を選択します。
3. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。変更を有効にするには、ログアウトする必要があります。変更を確定すると、ログアウトまでの時間カウントが開始されます。


 **注記：** 英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、日本語、または簡体字中国語を値に持つ文字列として DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) タグ 192 を設定する方法でも、言語を設定できます。

セキュリティ

この機能を使用すると、管理者パスワードおよびユーザー パスワードを変更できます。

パスワードを変更するには、以下の操作を行います。


1. [セキュリティ]をダブルクリックします。
2. [管理者]または[ユーザー]を選択して、[パスワードの変更]をクリックします。
3. [新しいパスワード]フィールドおよび[確認]フィールドに新しいパスワードを入力して、[OK]をクリックします。
4. ログインを必須にする場合は、[デスクトップへのアクセスにログインを必須にする]オプションを有効にします。
5. [OK]をクリックします。

 **注記：** ユーザーおよび管理者の両方のパスワードを初期設定値から変更することを強くおすすめします。

HP ThinPro の構成

以下の項目を選択できます。

- [接続]：認証済みの接続
- [コントロール パネル]：認証済みのアプリケーション
- [デスクトップ]：デスクトップのオプション
- [システム]：資産情報およびウェイク オン LAN モード

 **注記：** モデルによっては、このオプションを使用できない場合があります。

接続およびコントロール パネルのユーザー アクセス権の設定


[接続設定]タブおよび[コントロール パネル]タブでユーザー アクセス権を設定するには、以下の操作を行います。

1. [HP ThinPro の構成]をダブルクリックします。
2. 左パネルにある[接続]をクリックして、認証済みの接続のチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。
3. 左パネルにある[コントロール パネル]をクリックして、認証済みのアプリケーションのチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。
4. [適用]→[OK]の順にクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

ユーザーのデスクトップおよびシステムのオプションの設定

[デスクトップ]タブおよび[システム]タブで設定を実行するには、以下の操作を行います。

1. [HP ThinPro の構成]をダブルクリックします。
2. 左パネルにある[デスクトップ]をクリックして、デスクトップ オプションのチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。
3. 左パネルにある[システム]をクリックして、チェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外して、資産情報を設定したりウェイク オン LAN モードの有効/無効を切り替えたりします。

 **注記：** モデルによっては、このオプションを使用できない場合があります。

4. [適用]→[OK]の順にクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

管理

これらのユーティリティは、Thin Client ネットワークの管理に使用できる管理ツールです。[管理]タブでは以下のユーティリティを使用できます。

- [「AD/DDNS マネージャー」](#)
- [「HP Easy Deploy」](#)
- [「HP Easy Config」](#)
- [「HP Easy Update」](#)
- [「工場出荷時設定のリセット」](#)
- [「HP Automatic Update」](#)
- [「HPDM Agent」](#)
- [「SSH D マネージャー」](#)
- [「ThinState」](#)
- [「VNC シャドウイング」](#)

AD/DDNS マネージャー

このユーティリティを使用すると、Thin Client を Active Directory Server の組織単位に追加したり、動的 DNS による Thin Client の名前と IP アドレス関連付けの自動更新を有効にしたりできます。Active Directory データベースに対する認証は有効になりません。

1. [AD/DDNS マネージャー]をダブルクリックします。
2. 以下の情報を各フィールドに入力します。
 - [アクティブ ディレクトリ ドメイン]
 - [コンピューター用組織単位 (OU)]
 - [管理ユーザー名]
 - [管理ユーザー パスワード]

3. この情報がシステムによって自動更新されるようにする場合は、**[クライアントから動的 DNS をアップデート]**をクリックします。
4. **[情報]**をクリックして、以下の情報を表示します。
 - **[アクティブ ディレクトリ サーバー]**
 - **[証明書]**
 - **[時刻の同期]**
 - **[アクティブ ディレクトリ マシンの状態]**完了したら、**[OK]**をクリックします。
5. **[OK]**をクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

HP Easy Deploy

[HP Easy Deploy]は、**[HP Easy Tools]**管理スイートに含まれるツールです。詳しくは、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

HP Easy Config

[HP Easy Config]は、**[HP Easy Tools]**管理スイートに含まれるツールです。詳しくは、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

HP Easy Update

[HP Easy Update]は、**[HP Easy Tools]**管理スイートに含まれるツールです。詳しくは、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

工場出荷時設定のリセット

[工場出荷時設定のリセット]では、以下を行うことができます。

- 現在の設定の保存
- 工場出荷時設定の復元
- 工場出荷時のイメージの復元

これらの機能にアクセスするには、以下の操作を行います。

1. **[工場出荷時設定のリセット]**をダブルクリックします。
2. 目的の作業に応じたボタンをクリックします。

HP Automatic Update


HP Automatic Update を設定するには、以下の操作を行います。

1. [HP Automatic Update]をダブルクリックします。
2. 再起動時にこのシステムを更新する場合は、[システムの起動時に[HP Automatic Update]を有効にする]をクリックします。
3. 前の手順のオプションを有効にした場合、ftp、http、または https 経由でサーバー アドレスを提供するには、[手動設定を有効にする]をクリックします。 [サーバー]、[パス]、[ユーザー名]、および[パスワード]の各フィールドに手動で入力することもできます。

HPDM Agent

この機能を使用して、HP Device Management Agent を設定します。

1. [HPDM Agent]をダブルクリックして、この画面にアクセスします。
2. [全般]タブを使用して、以下の設定を行います。
 - [バックアップ ゲートウェイ]
 - [プル間隔]
 - [ログ レベル]
 - [遅延スコープ]
3. [グループ]タブを使用してグループを設定します。 事前に割り当てたグループを[DHCP]タブから選択するか、静的なカスタム グループを使用できます。
4. [OK]をクリックして変更内容を保存します。

 **注記：** 変更は[HP Device Management Agent]の再起動後に反映されます。

SSHD マネージャー

SSH (Secure Shell) アクセスを有効にするには、以下の操作を行います。


1. [SSHD マネージャー]をダブルクリックします。
2. [着信セキュア シェル アクセスを有効にする]をクリックします。
3. 必要に応じて、[管理者以外による Secure Shell 経由のアクセスを有効にする]をクリックします。
4. [OK]をクリックし、設定を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

ThinState

HP ThinState を使用して HP ThinPro イメージをコピーし、モデルおよびハードウェアが同一の別の HP ThinClient に、その設定を展開できます。

- [「HP ThinPro イメージの管理」](#)
- [「HP ThinPro の構成の管理」](#)

キャプチャ済みのイメージおよび設定を使用して、別のシステム上にコピー（展開）したり、設定を変更した後にその時点でのキャプチャを元の設定に復元したりできます。

 **注記:** HP ThinState はスタンドアロン ツールではありません。このツールには Thin Client イメージ内から管理者のみがアクセスできます。

HP ThinState を実行するには、以下のものがが必要です。

- HP が認定した USB フラッシュ ドライブ（USB キーとも呼ばれます）
- HP が提供する HP ThinPro イメージを含む HP Thin Client ユニット


HP ThinPro イメージの管理

HP ThinState では、以下の操作ができます。

- [「FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ」](#)
- [「リモート サイトからの HP ThinPro イメージの展開」](#)
- [「起動可能な USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ」](#)


FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

1. [ThinState] をダブルクリックします。
2. [HP ThinPro のイメージ] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. [HP ThinPro のイメージのコピーを作成する] を選択し、[Next] をクリックします。
4. [FTP サーバー] をクリックして、[次へ] をクリックします。

 **注記:** コピーを作成する前に、イメージ パスが FTP サーバー上に存在している必要があります。イメージ パスが FTP サーバーに存在しない場合は、[HP ThinState] によってエラーが発生します。

初期設定のイメージ ファイル名は HP ThinPro ホスト名に設定されます。

5. 各フィールドに FTP サーバーの情報を入力し、[イメージを圧縮する] を選択するか、選択を解除します。

 **注記:** HP ThinPro イメージ ファイルは、ディスクを簡単にそのまま保存したものです。圧縮前のサイズは 512 MB であり、アドオンなしの圧縮イメージは約 237 MB です。

6. [完了] をクリックします。

イメージ キャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、コピーの進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細] をクリックして情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。


HP ThinPro イメージのキャプチャが完了します。

リモート サイトからの HP ThinPro イメージの展開

リモート サイトから HP ThinPro イメージを展開する方法は 2 つあります。HP ThinState ツールを直接使用する方法および Web ブラウザー接続を作成する方法です。

HP ThinState ツールを直接使用して展開するには、以下の操作を行います。

1. **[ThinState]**をダブルクリックします。
2. **[HP ThinPro のイメージ]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。
3. **[HP ThinPro のイメージを復元する]**を選択し、**[Next]**をクリックします。
4. FTP または HTTP プロトコルを選択します。フィールドにリモート サーバーの情報を入力します。


 **注記：** HTTP プロトコルを使用する場合は、**[ユーザー名]**および**[パスワード]**は必須ではありません。

使用するイメージ ファイルを確認してください。イメージのアップグレードの開始前に、内容やサイズが確認されることはありません。

5. **[完了]**をクリックします。

イメージ キャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、コピーの進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、**[詳細]**をクリックして情報を確認します。復元が完了すると、デスクトップが再表示されます。

MD5 チェック サムの確認は、ファイルが FTP サーバー上に存在する場合にのみ実行されます。

 **注記：** 復元を中止した場合、以前に上書きされたイメージが復元されることがなく、フラッシュドライブの内容が破損してしまいます。


Web ブラウザー接続を使用して展開するには、以下の操作を行います。

1. 管理者モードに切り替えます。
2. ThinPro イメージが置かれている HTTP サーバーまたは FTP サーバーへの Web ブラウザー接続を作成します。
3. ThinPro イメージ ファイルへのリンク（通常は.dd.gz ファイル拡張子の付いたリンク）を右クリックします。
4. **[[HP ThinState]でリンクを開く]**を選択します。
5. 表示される値を確認し、**[完了]**をクリックしてイメージの配備を開始します。

復元はこれで完了です。

起動可能な USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

HP ThinPro イメージを含む起動可能な USB フラッシュ ドライブを使用すると、別の Thin Client 上にイメージを復元または複製できます。

 **注記：** USB フラッシュ ドライブにデータがある場合は、キャプチャを開始する前にバックアップします。ThinState によってフラッシュ ドライブが自動的に初期化され、起動可能な USB フラッシュ ドライブが作成されます。このプロセスによって、現在フラッシュ ドライブにあるすべてのデータが消去されます。

1. **[ThinState]**をダブルクリックします。
2. **[HP ThinPro のイメージ]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。
3. **[HP ThinPro のイメージのコピーを作成する]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。

4. **[起動可能な USB フラッシュ ドライブを作成する]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
5. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。その USB フラッシュ ドライブを選択して、**[終了]**をクリックします。

イメージ キャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、コピーの進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、**[詳細]**をクリックして情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。


HP ThinPro イメージのキャプチャが完了します。

起動可能な USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro イメージの展開

起動可能な USB フラッシュ ドライブから HP ThinPro イメージをインストールするには、以下の操作を行います。

1. 目的の Thin Client の電源を切ります。
2. 起動可能な USB フラッシュ ドライブを接続します。
3. Thin Client の電源を入れます。

Thin Client が起動可能な USB フラッシュ ドライブを認識して起動を開始するまで、画面が 10 ~15 秒間黒くなります。

 **注記：** USB フラッシュ ドライブから Thin Client を起動できない場合は、他のすべての USB デバイスを取り外して、この手順を繰り返します。

HP ThinPro の構成の管理

HP ThinPro の構成ファイルには、**[コントロール パネル]**のアプリケーションによって設定された接続および設定が含まれます。構成ファイルは HP ThinPro の特定のバージョンに固有のもので、必ず、同じバージョンの HP ThinPro によって生成された構成ファイルを使用してください。


HP ThinPro では、以下の操作が可能です。

- [「FTP サーバーへの HP ThinPro 構成の保存」](#)
- [「リモート サーバーからの HP ThinPro 構成の復元」](#)
- [「USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro 構成のキャプチャ」](#)
- [「USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro 構成の復元」](#)

FTP サーバーへの HP ThinPro 構成の保存

1. **[ThinState]**をダブルクリックします。
2. **[HP ThinPro の構成]**を選択して、**[次へ]**をクリックします。
3. **[構成を保存する]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。

4. **[FTP サーバー]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。


 **注記：** コピーを作成する前に、ファイル パスがFTP サーバー上に存在している必要があります。ファイル パスがFTP サーバーに存在しない場合は、[HP ThinState]によってエラーが生成されます。

5. フィールドにFTP サーバーの情報を入力して、**[終了]**をクリックします。

HP ThinPro 構成のキャプチャが完了します。

リモート サーバーからの HP ThinPro 構成の復元

1. **[ThinState]**をダブルクリックします。
2. **[HP ThinPro の構成]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。
3. **[構成を復元する]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
4. **[リモート サーバー]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
5. FTP または HTTP プロトコルを選択します。フィールドにリモート サーバーの情報を入力します。

 **注記：** HTTP プロトコルを使用する場合は、**[ユーザー名]**および**[パスワード]**は必須ではありません。

6. **[完了]**をクリックします。

HP ThinPro の構成の復元が完了します。

USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro 構成のキャプチャ

1. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。
2. **[ThinState]**をダブルクリックします。
3. **[HP ThinPro の構成]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。
4. **[構成を保存する]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
5. **[USB キー]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
6. USB フラッシュ ドライブを選択します。
7. **[参照]**をクリックします。
8. USB フラッシュ ドライブ内の目的の場所に移動し、プロファイルにファイル名を割り当てます。
9. **[保存]**をクリックします。
10. **[完了]**をクリックします。

HP ThinPro 構成のキャプチャが完了します。USB フラッシュ ドライブを取り外します。

USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro 構成の復元

1. Thin Client にコピーするプロファイルを含む USB フラッシュ ドライブを接続します。
2. **[ThinState]** をダブルクリックします。
3. **[HP ThinPro の構成]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
4. **[構成を復元する]** をクリックして、**[次へ]** をクリックします。
5. **[USB キー]** をクリックして、**[次へ]** をクリックします。
6. USB フラッシュ ドライブを選択します。
7. **[参照]** をクリックします。
8. USB フラッシュ ドライブ内の目的のプロファイル ファイルをダブルクリックします。
9. **[完了]** をクリックします。


HP ThinPro の構成の復元が完了します。USB フラッシュ ドライブを取り外します。

VNC シャドウイング

VNC (Virtual Network Computing) は、リモート マシンのデスクトップを表示し、手元にあるマウスおよびキーボードでそのデスクトップを制御できるリモート制御プログラムです。

他の場所から Thin Client にアクセスできるようにするには、以下の操作を行います。

1. **[VNC シャドウイング]** をダブルクリックします。
2. VNC を使用して Thin Client にアクセスできるようにするには、**[VNC シャドウを有効にする]** を選択します。
3. VNC セッションを読み取り専用にするには、**[VNC 読み取り専用]** を選択します。
4. VNC を使用した Thin Client へのアクセスにパスワードを要求するには、**[VNC でパスワードを使用する]** を選択します。
5. 他のユーザーが VNC を使用して Thin Client にアクセスしてきたときにメッセージを表示し、VNC アクセスを拒否できるようにするには、**[VNC で許可/拒否をユーザーに通知する]** を選択します。
 - a. **[VNC で通知のタイムアウトを表示する]** を選択して、ユーザーが拒否できる遅延時間を設定します。
 - b. **[ユーザーへの通知メッセージ]** フィールドに入力します。
6. **[VNC サーバーを今すぐ再設定する]** を選択して **[OK]** をクリックし、VNC サーバーをリセットします。
7. **[OK]** をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを終了します。

 **注記：** 変更を有効にするには、Thin Client を再起動する必要があります。

詳細設定

これらのユーティリティを使用すると、CDA モードを有効にしたり、テキスト ユーティリティを開いたり、ルート ディレクトリにアクセスしたりできます。[詳細設定]タブでは以下のユーティリティを使用できます。


- [「CDA モード」](#)
- [「DHCP オプション マネージャー」](#)
- [「テキスト エディター」](#)
- [「X ターミナル」](#)

CDA モード

このユーティリティを使用すると、Citrix デスクトップ アプライアンス (CDA) モードを有効にして、URL を設定できます。

CDA モードを使用するには、以下の操作を行います。

1. Web ブラウザー モードのオプションが設定されていることを確認します。詳しくは、[「Web ブラウザー」](#)を参照してください。
2. **[CDA モード]**をダブルクリックします。
3. **[CDA を有効にする]**を選択し、フィールドに URL を入力します。
4. **[OK]**をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

 **注記：** Citrix 環境の URL を値に持つ文字列として DHCP タグ 191 を設定する方法でも、CDA モードを有効にできます。

CDA モードを無効にするには、以下の操作を行います。

1. **Ctrl + Alt + End** キーを押して Web ブラウザーを最小化します。
2. **[コントロール パネル]**→**[詳細設定]**→**[CDA モード]**の順にクリックします。
3. **[CDA を有効にする]**チェック ボックスのチェックを外します。
4. **[OK]**をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

デスクトップを再起動すると、CDA モードが無効になります。

DHCP オプション マネージャー

DHCP オプション マネージャーは、クライアントで要求される DHCP タグの詳細を表示します。**[要求]**列でタグ要求を有効にすることによって、個々の DHCP タグを要求または無視するよう Thin Client に指示できます。

DHCP サーバーで特定のコード番号が競合している場合、DHCP コードの横に鉛筆アイコンが表示されているときは、コード自体を変更できます。各オプションの横にある情報アイコンをクリックすると、Thin Client と DHCP サーバーの両方でのオプションの用途を確認できます。

左下隅のドロップダウン リストを使用して、表示する DHCP タグを変更できます。**[カスタム オプションの表示]**、**[共通オプションの表示]**、または**[すべてのオプションの表示]**を選択できます。

テキスト エディター

このメモ帳スタイルのユーティリティを開くには、以下の操作を行います。

- ▲ [テキスト エディター]をダブルクリックします。

Xターミナル

ローカルの Thin Client のコマンド ラインにアクセスするには、以下の操作を行います。

- ▲ [Xターミナル]をダブルクリックします。

キーボード ショートカット

キーボード ショートカットを使用すると、ユーザーは、プログラムの起動や現在のウィンドウの最小化および終了などの操作の実行にキーの組み合わせを割り当てることができます。

1. [キーボード ショートカット]をダブルクリックします。
2. 新しいキーボード ショートカットを[作成]するには、以下の操作を行います。
 - a. [新規]をクリックします。
 - b. コメントを[入力]するかまたは[ディレクトリから選択]して、実行したいプログラムおよび操作を参照します。
 - c. 実行したいこの新しいプログラムおよび操作をトリガーするキーの組み合わせを実行します。
 - d. 間違えた場合は、キーの組み合わせを再度実行してエラーを上書きします。
 - e. [OK]をクリックします。
3. キーボード ショートカットを[編集]するには、以下の操作を行います。
 - a. [編集]したいキーボード ショートカット セクションをクリックします。
 - i. コマンドを編集する場合は、[コマンド]をクリックします。

コメントを[入力]するかまたは[ディレクトリから選択]して、実行したいプログラムおよび操作を参照します。
 - ii. ショートカットを編集する場合は、[ショートカット]をクリックします。

実行したいこの新しいプログラムおよび操作をトリガーするキーの組み合わせを実行します。
 - b. [OK]をクリックします。
4. キーボード ショートカットを[削除]するには、以下の操作を行います。
 - a. [削除]したいキーボード ショートカットをクリックします。
 - b. [削除]をクリックします。

システム情報



[システム情報]タブには以下の5つのタブがあります。

- [「全般」](#)
- [「ネットワーク」](#)
- [「ネット ツール」](#)
- [「ソフトウェア情報」](#)
- [「システム ログ」](#)

全般

[全般]タブには、以下の情報が表示されます。

- BIOS (Basic Input/Output System) および OS (Operating System)
 - シリアル番号
 - BIOS バージョン
 - BIOS リリース日

- OS ビルド ID
- OS のカーネル バージョン
- システム
 - プラットフォーム
 - CPU (Central Processing Unit) 速度
 - プロセッサ
- フラッシュおよびメモリ
 - 空き領域
 - 使用済み領域
 - インストール済み

ネットワーク

[ネットワーク]タブには、以下の情報が表示されます。

- インタフェース
 - 名前
 - 状態
 - 種類
 - IP アドレス
 - ネットワーク マスク
 - MAC (Media Access Control) アドレス
 - DHCP サーバー アドレス
 - インタフェース統計
- ネットワーク
 - デフォルト ゲートウェイ
- DNS 設定
 - ホスト名
 - 初期設定ドメイン
 - ネームサーバー

ネット ツール

[ネット ツール]タブでは、テストを実行できます。

1. [システム情報]→[ネット ツール]の順にクリックします。
2. ツールを選択します。
 - Ping
 - DNS ルックアップ
 - traceroute
3. ホストを識別し、診断パラメーターを設定します。
4. [プロセスを開始する]をクリックします。
5. 診断ログを消去するには、[ログの消去]をクリックします。

ソフトウェア情報

[ソフトウェア情報]タブに、インストールされた主なソフトウェアの名前とバージョンが表示されます。

システム ログ

[システム ログ]にはログ情報が表示されます。

- スマート クライアント サービス：新規または更新されたプロファイルの確認およびプルに関するログを表示します
- DHCP 有線リース：現在の有線接続でのリース情報のログを表示します
- DHCP 無線リース：現在の無線接続でのリース情報のログを表示します
- カーネル：カーネル タスク、メッセージ、警告、およびエラーに関するログを表示します
- X Server：X Server のタスク、メッセージ、警告、およびエラーに関するログを表示します

これらのすべてのログの診断アーカイブを保存するには、以下の操作を行います。

1. [診断]をクリックし、ファイルに名前を付けて、保存場所を指定します。
2. [保存]をクリックしてアーカイブを保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

索引

A

Active Directory マネージャー 40
AD/DDNS マネージャー 40
Agent 設定マネージャー 42

C

CDA モード 48
Citrix ICA
 オプション 11
 接続設定 7
 接続の追加 11
Citrix デスクトップ アプリアン
ス 48

D

DHCP Option Manager 48

H

HP Automatic Update 42
HP Easy Config 41
HP Easy Tools 38
[HP Easy Tools]ウィザード 4
HP Easy Update 41
HP ThinPro 1, 2
HP ThinPro のインストール 4

I

ICA
 オプション 11
 接続設定 7
 接続の追加 11

R

RDP
 オプション 14
 接続設定 9

接続の追加 14
設定 9

S

SCIM 33
Secure Shell アクセス 42
SSH
 オプション 22
 接続の追加 22
SSHD マネージャー 42

T

TeemTalk
 ウィザードによる接続の追加 17
 オプション 17
 手動による接続の追加 18
 接続の追加 17
Telnet
 オプション 23
 設定の追加 23

Thin Client

イメージ 1

ThinPrint 34

ThinPro 1, 2

構成 39

ThinPro コントロール センター 5

ThinPro のインストール 4

ThinState 42

FTP サーバーへの ThinPro イ
メージのキャプチャ 43

FTP サーバーへの構成の保存
45

HP ThinPro の構成の管理 45

ThinPro イメージの管理 43

USB フラッシュ ドライブから
の HP ThinPro イメージの展
開 45

USB フラッシュ ドライブから
の構成の復元 47

USB フラッシュ ドライブへの
Thin Client 構成のキャ
プチャ 46

USB フラッシュ ドライブへの
ThinPro イメージのキャ
プチャ 44

リモート サーバーからの構成
の復元 46

リモート サイトからの
ThinPro イメージの展開 43

U

USB

取り付けの設定 34
マネージャー 34

V

VMWare View

オプション 20

接続の追加 20

VNC シャドウイング 47

W

Web ブラウザー

オプション 19

接続設定 9

接続の追加 19

X

XDMCP

オプション 21

接続の追加 21

XenApp
オプション 19
接続の追加 19
Xターミナル 49

あ

アグリゲーション 26
クライアントの概要 26
クライアントの設定 28
クライアント、無効化 31
サーバーの設定 28

い

イメージ
Thin Client 1
インストール、HP ThinPro 4
一般的なシステム情報 50

お

オプション
Citrix ICA 11
ICA 11
RDP 14
SSH 22
TeemTalk 17
Telnet 23
VMWare View 20
Web ブラウザー 19
XDMCP 21
XenApp 19
カスタム 24

か

カスタム
オプション 24
接続の追加 24
管理者、ログイン 3
管理ユーティリティ 40

き

キーボード ショートカット 49
キーボード レイアウト 32

く

クライアント アグリゲーション
26
概要 26
設定 28
無効化 31

け
言語 38

こ

工場出荷時設定のリセット 41
コピー、接続 24
コントロール パネル 25
Active Directory マネージャー 40
AD/DDNS マネージャー 40
Agent 設定マネージャー 42
CDA モード 48
DHCP オプション マネージャー 48
HP Automatic Update 42
HP Easy Config 41
SCIM 33
SSHD マネージャー 42
ThinPrint 34
ThinPro の構成 39
ThinState 42
USB マネージャー 34
VNC シャドウイング 47
Xターミナル 49
管理ユーティリティ 40
キーボード レイアウト 32
クライアント アグリゲーション 26
言語 38
工場出荷時設定のリセット 41
サウンド 33
周辺機器のユーティリティ 26
詳細設定ユーティリティ 48
スクリーンセーバー 37
セキュリティ 39
セットアップ ユーティリティ 35
タッチ スクリーン 34
動的 DNS (Dynamic Domain Name System) マネージャー 40
ネットワーク 35
日付と時刻 35
表示設定 31
プリンター 33
マウス 33
マウスパッド 49

コントロール パネル
HP Easy Update 41

さ

サウンド 33
削除
接続 24

し

時刻と日付 35
システム情報 50
全般 50
ソフトウェア情報 52
ネット ツール 52
ネットワーク 51
システム ログ 52
シャドウイング 47
周辺機器のユーティリティ 26
詳細設定ユーティリティ 48

す

スクリーンセーバー 37

せ

セキュリティ 39
接続 6
一覧 10
削除 24
設定 5
追加 10, 24
編集 24
ユーザー ビュー 25
接続の追加
Citrix ICA 11
ICA 11
RDP 14
SSH 22
TeemTalk 17
Telnet 23
VMWare View 20
Web ブラウザー 19
XDMCP 21
XenApp 19
カスタム 24
切断 7
設定
アグリゲーション クライアント 28

アグリゲーション サーバー 28
 クライアント アグリゲーション 28
 モニター 28
 設定ウィザード 4
 設定内容 5
 セットアップおよびインストール、HP ThinPro 4
 セットアップ ユーティリティ 35

そ

ソフトウェア情報、システム情報 52

た

タスクバー 3
 タッチ スクリーン 34

つ

追加、接続
 Citrix ICA 11
 ICA 11
 RDP 14
 SSH 22
 TeamTalk 17
 Telnet 23
 VMWare View 20
 Web ブラウザー 19
 XDMCP 21
 XenApp 19
 カスタム 24

と

動的 DNS (Dynamic Domain Name System) マネージャー 40

ね

ネット ツール、システム情報 52
 ネットワーク 35
 ネットワーク、システム情報 51

は

背景マネージャー 38

ひ

日付と時刻 35

表示
 設定 28, 31
 プロファイルの削除 32
 プロファイルの追加 31
 プロファイルの編集 32

ふ

プリンター 33

へ

編集
 接続 24

ま

マウス 33
 マウスパッド 49

も

モニターの設定 28

ゆ

ユーザー
 インターフェイス、HP ThinPro 1, 2
 ログイン 3
 ユーザー ビュー、接続 25

る

ルート ディレクトリへのアクセス 49

ろ

ログ、システム 52